

ご指導いただく先生方へ

第34回 こどもの詩（ポエム）コンクール作品募集

お父さん・お母さんに詩をプレゼントしよう

詩の内容

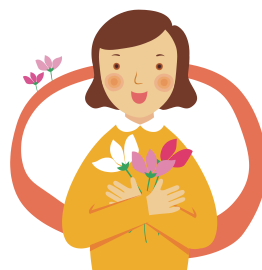
お父さん・お母さんに対する自分の気持ちや考えていること、感じていることを、詩を読んだ人にも目に浮かぶよう具体的な場面を詩に書く。

お父さんだけ、お母さんだけを詩に書いてもいいし、お父さん・お母さん両方を詩に書いてもよい。お父さん、お母さんを書いた詩の中に、家族が描かれていてもよい。作者自身が登場していてもよい。「お父さん、お母さん」をテーマとして書かれた詩であること。

別添資料の作品を読んでやり、掲示としてご利用ください。

《題名の工夫をする》

「お父さん」「お母さん」という題ではなく、題名を一工夫してほしい。
題名をどうつけるかが、作品を左右するキーポイントになります。



濃い鉛筆で、原稿用紙に丁寧な文字で清書してください。

（必ず自筆で書くこと！）

1行目に「題名」

2行目に「学校名・学年・氏名」を書く。（特に学校名と“学年”の記入確認を！）

3行目から詩を書く。

☆ 学 級 懇 談 会 の 貴 重 な 資 料 に ☆

2部清書して、保護者に詩をプレゼントされてはいかがでしょうか。

子どもが、こんな気持ちで自分をみていたんだなあと新鮮な感動を覚えるでしょうし、親としての責任を再認識するチャンスにもなります。また、わが子の良さを再発見することもできます。

子どもは純粋で素直に自分の思いを詩に書くので、親子の関係も更によくなることでしょう。

審査員統括

佐藤 俊幸

K A B こどもの詩コンクールご指導の先生方に

☆作品応募の参考にしていいただければ幸いです。

- ・ 自分のお父さんらしさお母さんらしさをよく観察して詩に表現してであると心を打たれます。
- ・ 読んで心に残る感動的な詩は、この詩の親に是非会ってみたいなと思わせる詩（イメージが浮かんでくる詩）です。

↓ そのためには

場面や出来事を具体的に書くと、その場の様子がよく分かります。会話も入れると、より臨場感が伝わる場合もあります。

（例）仕事→どんな仕事なのか、働く様子、大変さ、楽しさ、喜びなどが目に浮かぶように表現。

- ・ 説明的な言葉でなく、読んだ人が、その場面や様子を見ているように具体的に表現してであると感動させられます。

「ありがとう」「感謝」「楽しい」「おもしろい」という言葉は書かないで、「楽しかった」「感謝しているんだな」と思わせる場面の様子が具体的に書かれた詩を読むと、書いた人の気持ちが感じ取られます。

- ・ 題も工夫しましょう。
詩のテーマ、自分の詩で表現したい中心・ポイントを題につける。
- ・ 詩が完成するまで、第一作目から書き直した原稿は捨てずに残しておくことが大切です。最初に書いたのが、いい表現の場合もあります。
- ・ 詩は、書き過ぎない余韻を持たせることも大切です。
- ・ 内容は良くても、作文（散文）のように続けて書いたままの作品も目立ちます。句読点のところで改行すると詩の形になってきます。
- ・ 詩では句読点を書かない方が余韻があり、読む人の想像がふくらみます。
- ・ 濃い鉛筆で丁寧に楷書で清書してあるのが読みやすい作品です。
- ・ 学校名、学年が書いてあるかを、再度ご確認ください。

審査統括 佐 藤 俊 幸

作品取りまとめの際にご確認ください

**ホチキス留め
しないでください**

[illegible]

2枚以上になる場合は
枠外にも名前の記入をお願いします

児童・生徒さんへ

**学年・読み仮名を
忘れずに記入してください**